

決算説明会

2022年3月期決算の概要
2023年3月期業績見通し

株式会社 **アールス物流**

(東証プライム 9055)

2022年5月11日

代表取締役
社長執行役員

臼居 賢

- 1. 2022年3月期決算の概要**
2. 2023年3月期業績見通し

経済環境

コロナの影響を大きく受け、感染状況を睨みながら経済活動を実施。物流は、コンテナ不足に伴う海上輸送逼迫、スペース不足による航空輸送逼迫、運賃高騰が続いた。

電子部品関連

半導体関連業界は活況が続く一方、自動車や電機メーカーは半導体不足により生産調整を余儀なくされ、回復の制約要因となった。

消費物流

コロナ長期化に伴う在宅生活様式の定着により通販・宅配需要は高水準が継続した。

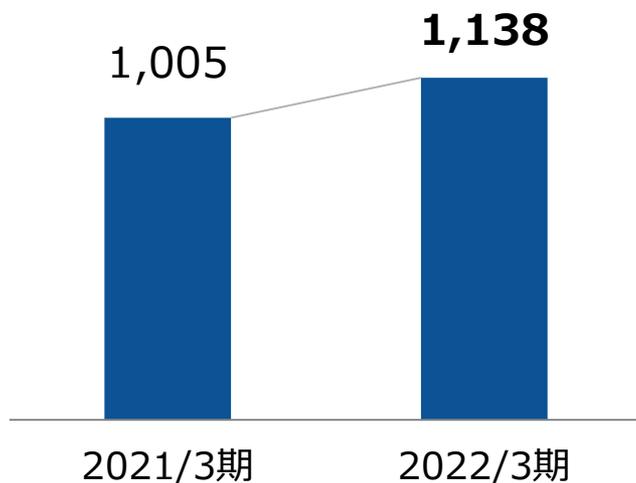
今後の業績影響要因

電子部品市場は上向き。海上・航空輸送は今期後半から正常化か。コロナ影響、半導体不足、インフレ懸念、地政学リスク等が不透明要因と見る。

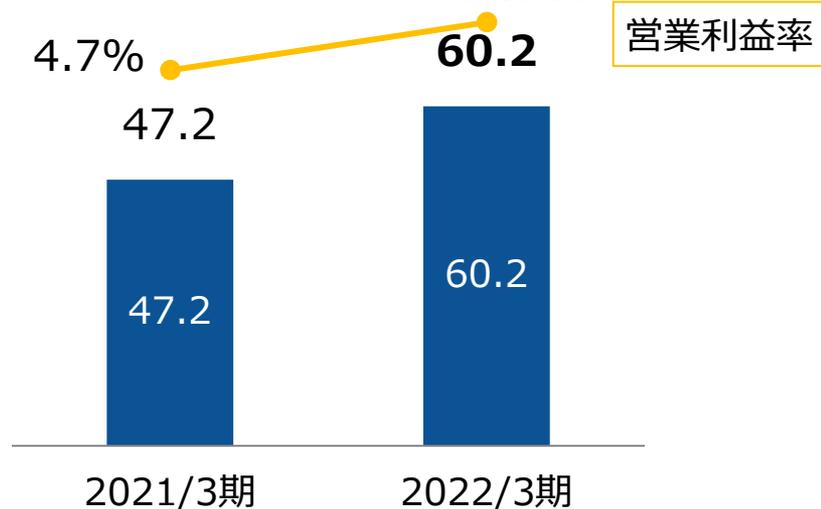
売上高、各段階利益いずれも過去最高を更新

(単位:百万円)	2021/3期	2022/3期	
	実績	実績	増減率 (対前期)
売上高	100,562	113,814	13.2%
営業利益	4,725	6,021	27.4%
経常利益	4,926	6,166	25.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,900	3,598	24.1%

■ 売上高 (単位: 億円)

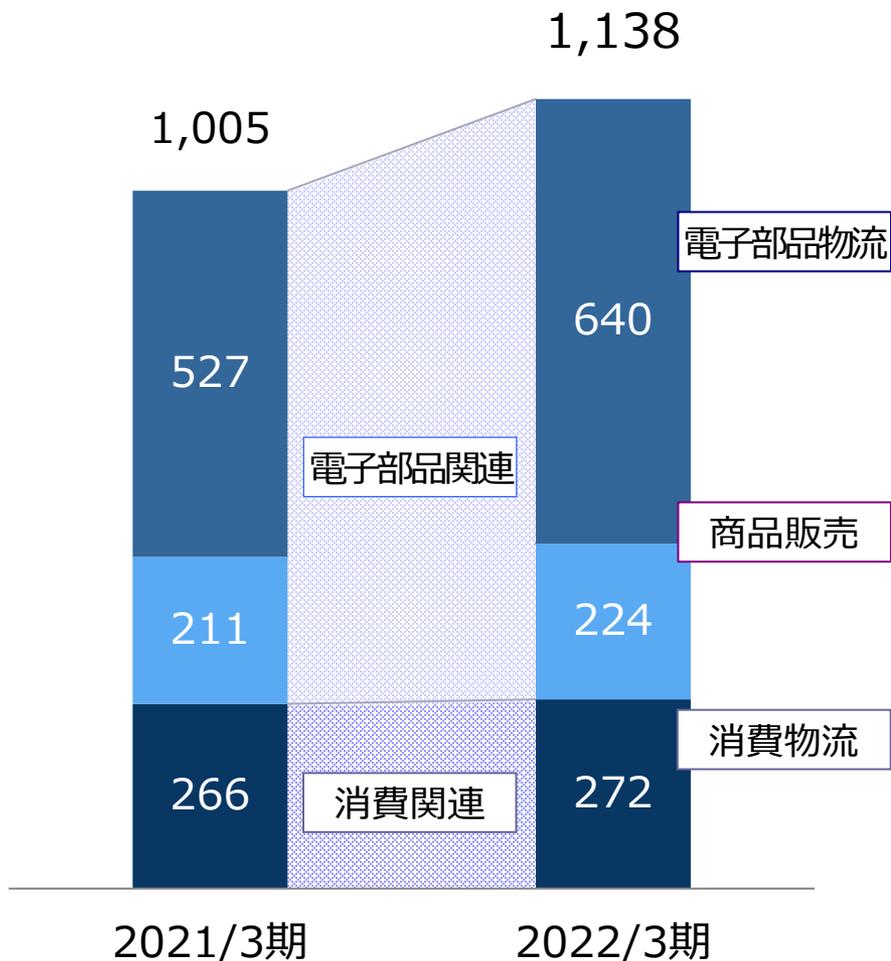


■ 営業利益 (単位: 億円)



■ セグメント別売上高

(単位：億円)



前期比 +132億円 (+13.2%)

■ 電子部品物流 +113 億円

着実な拡販により国内・海外共に保管・運送・輸出入の全事業において増

■ 商品販売 +13 億円

通信・情報機器向け成形材が中国を中心に増。包装材も拡販により増

■ 消費物流 +5 億円

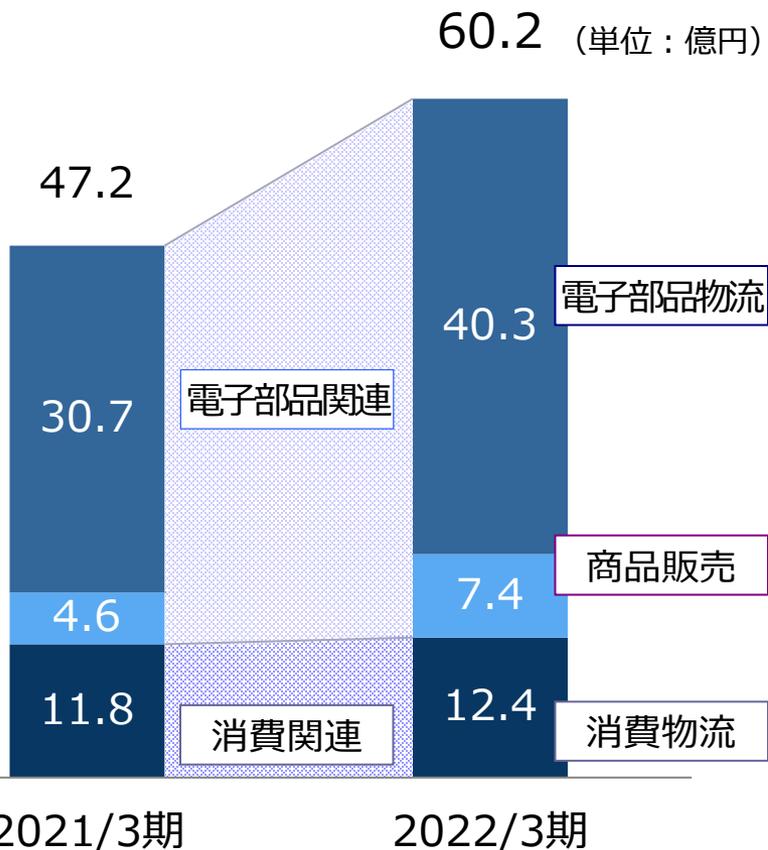
新規稼働のメディカル関連が寄与。在宅生活様式の定着で宅配需要高水準継続

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

■ セグメント別営業利益



前期比 **+12.9 億円 (27.4%)**



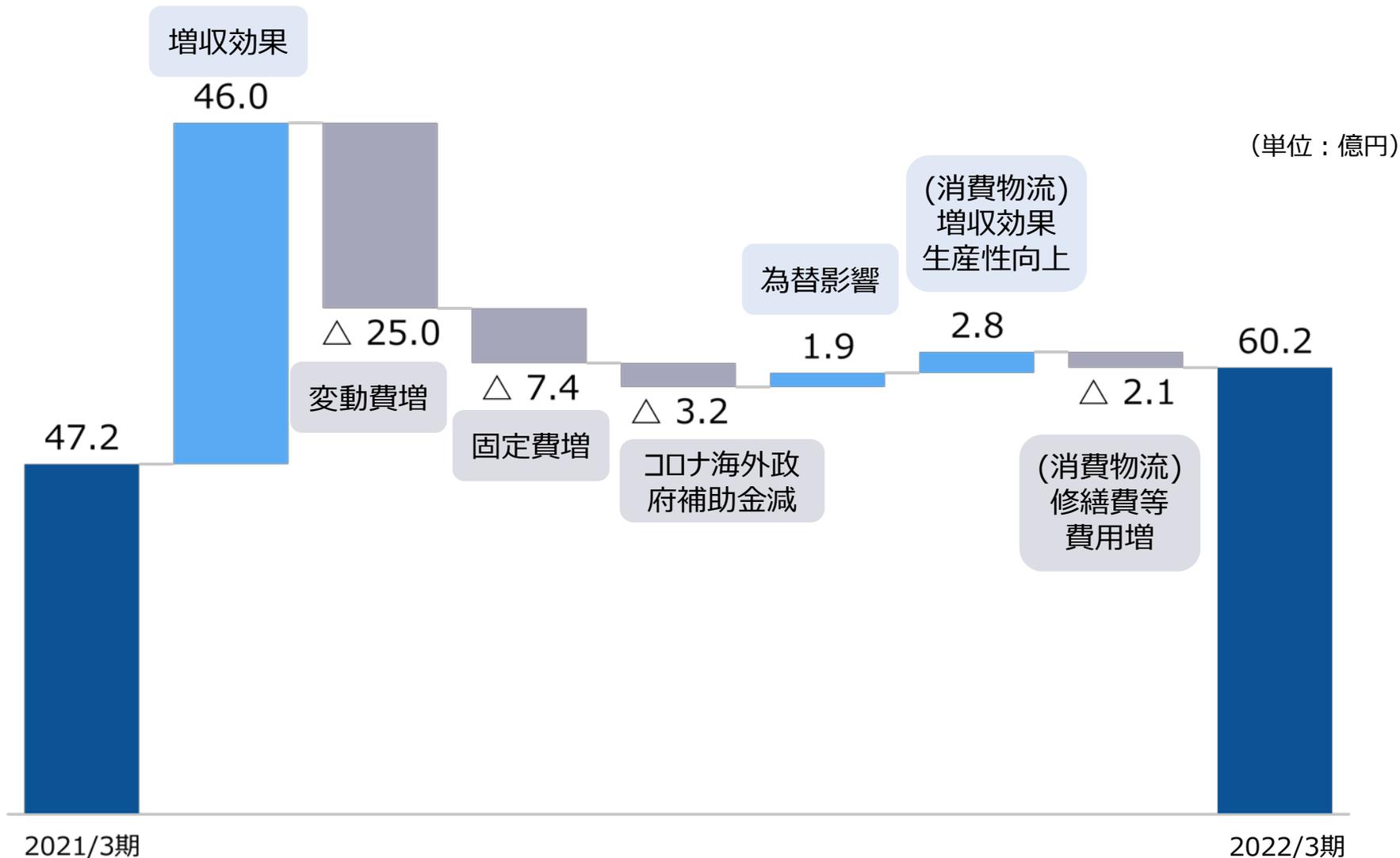
■ 電子部品物流 + 9.5 億円
増収効果とIT化による入出庫業務の効率化などによる生産性向上で増

■ 商品販売 + 2.8 億円
増収効果による利益増、為替の円安も寄与

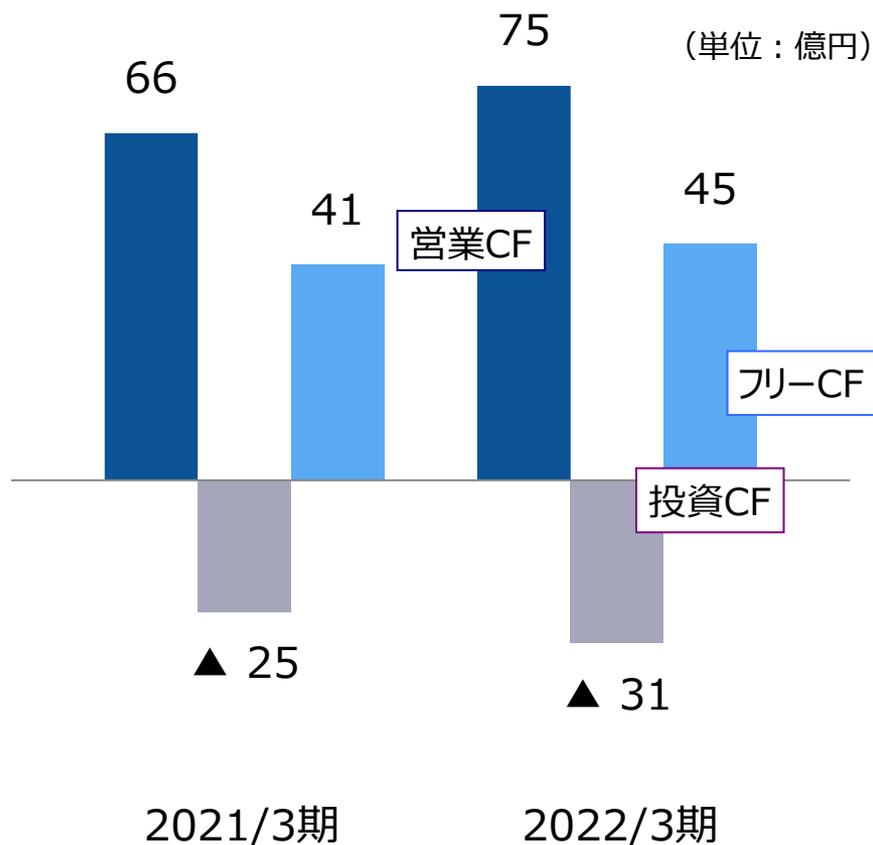
■ 消費物流 + 0.6 億円
減価償却費や修繕費、燃料費のコスト増対し、自動化などによる生産性向上

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

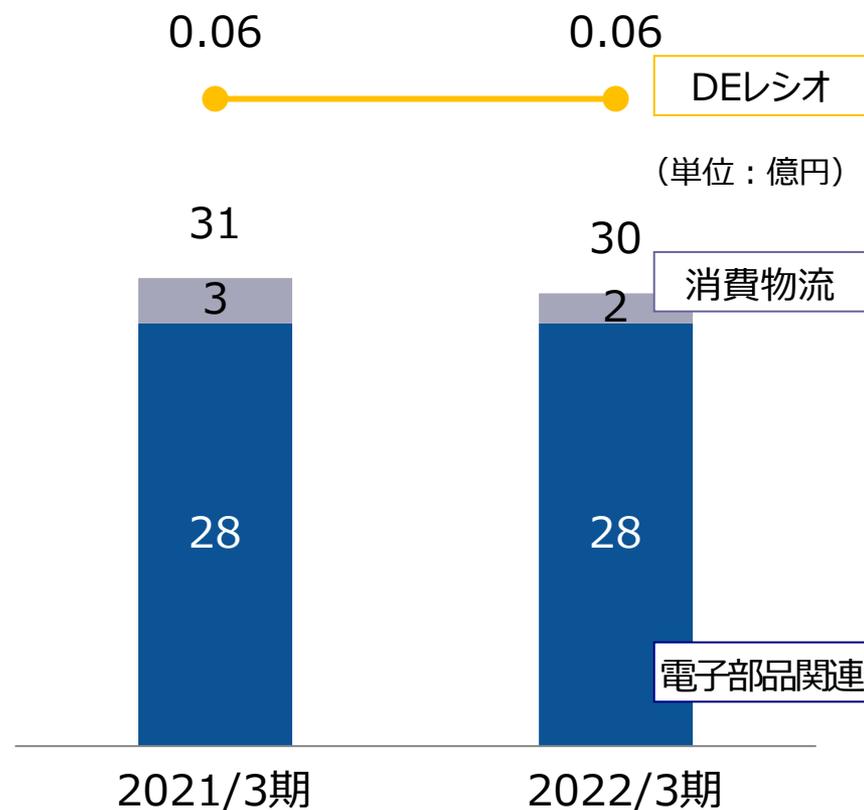
拡販や国際航空輸送の増収効果などにより増益



■ キャッシュフロー



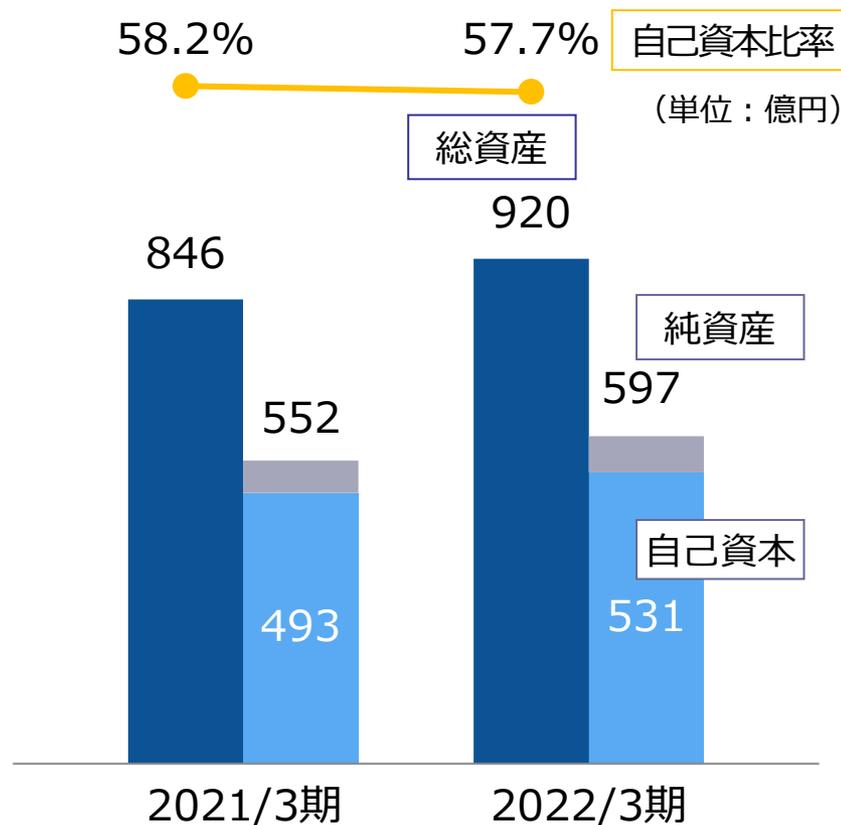
■ 有利子負債残高



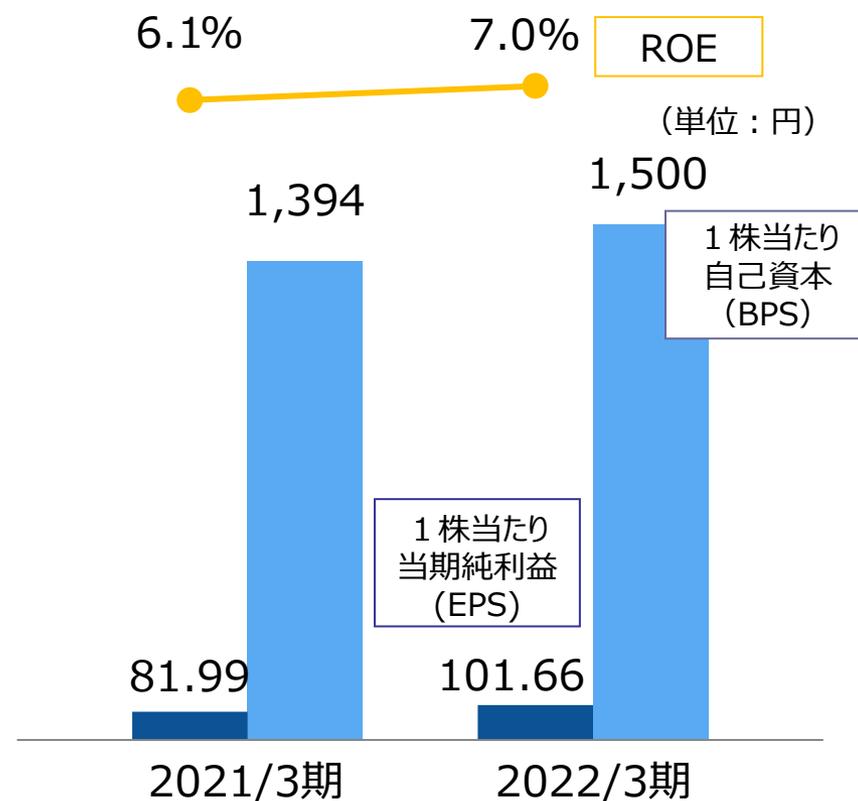
営業CF:利益増による増
投資CF:新倉庫建設関連支出の増

借入金：消費物流で減
DEレシオ：借入金の変動小さく横ばい

■ 資産状況



■ ROE・EPS・BPS



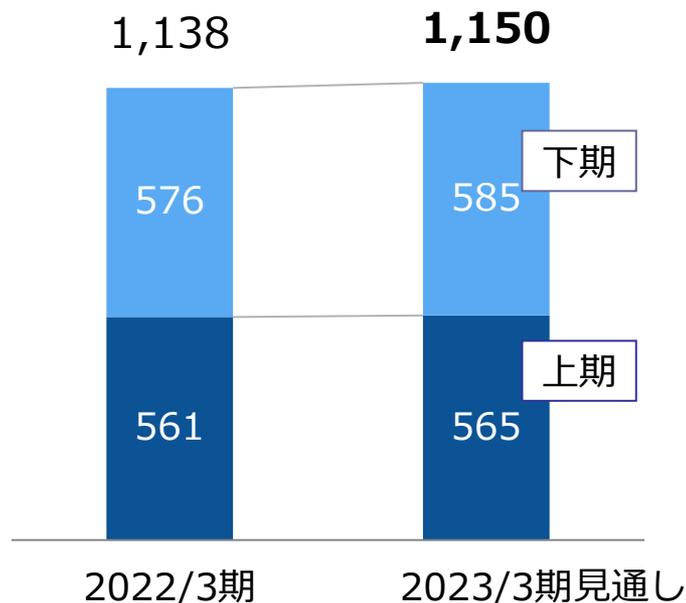
総資産：現預金や有形固定資産増による増
 自己資本比率：
 自己資本増も、総資産増により低下

親会社株主に帰属する当期純利益の増に伴い、EPS +19.67円、ROE +0.9p

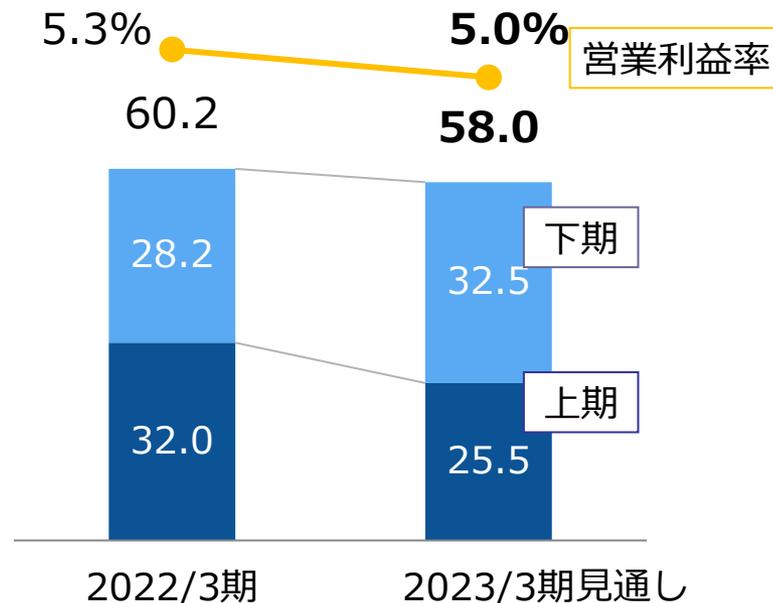
1. 2022年3月期決算の概要
- 2. 2023年3月期業績見通し**

(単位:百万円)	2022/3期		2023/3期		
	実績	利益率	見通し	利益率	増減率
売上高	113,814	-	115,000	-	+ 1.0 %
営業利益	6,021	5.3 %	5,800	5.0 %	△ 3.7 %
経常利益	6,166	5.4 %	5,550	4.8 %	△10.0 %
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,598	3.2 %	3,250	2.8 %	△ 9.7 %

■ 売上高 (単位:億円)

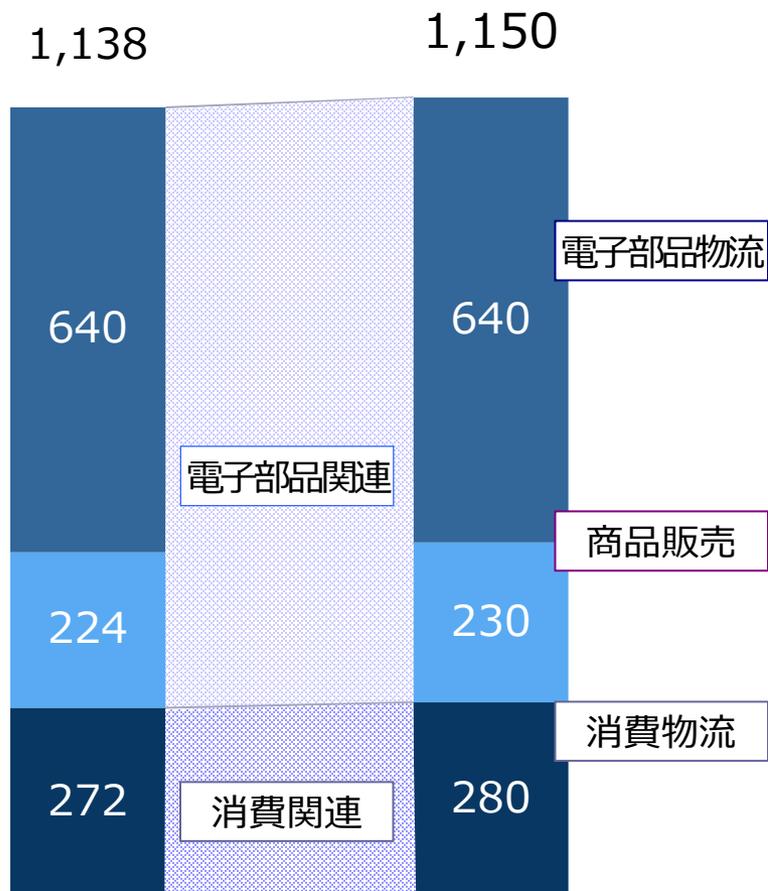


■ 営業利益 (単位:億円)



■ セグメント別売上高

(単位：億円)



2022/3期

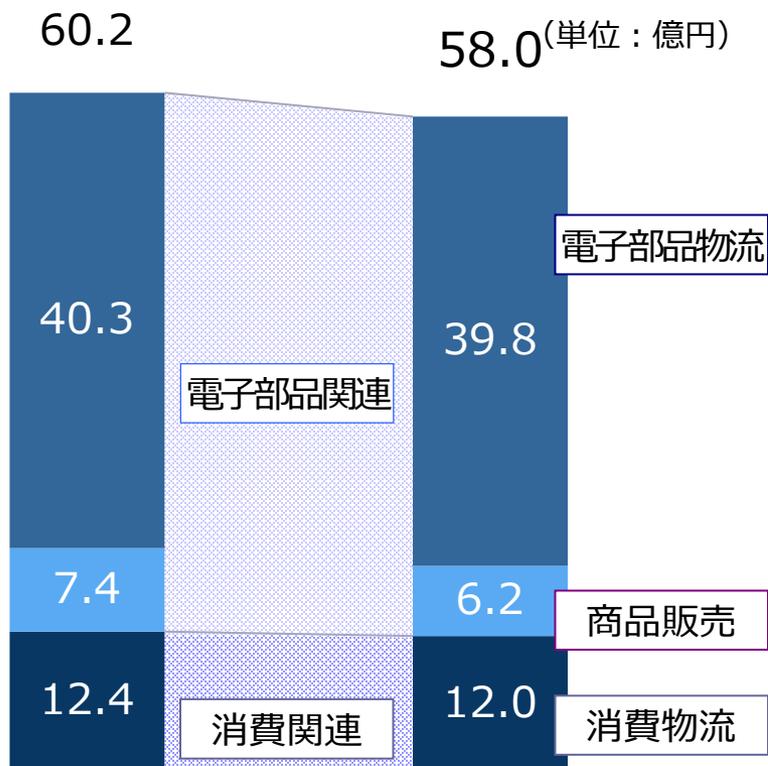
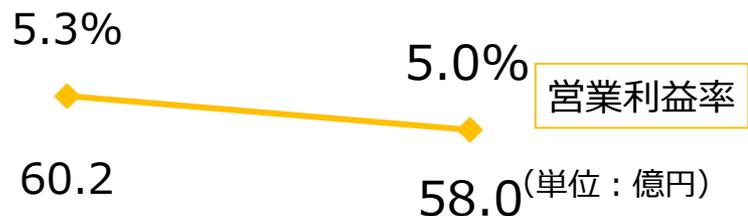
2023/3期見通し

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

前期比 **+12 億円 (+1.0%)**

- 電子部品物流** ± 0 億円
 国内中心に運送・保管事業が増、
 前期のSPOT/緊急貨物減（主に輸出入関連）
- 商品販売** + 6 億円
 包装は外販中心に若干増、
 デバイスが北米向けを中心に増
- 消費物流** + 8 億円
 EC物流の拡大、
 新規生協への拡販

■ セグメント別営業利益



前期比 Δ **2.2 億円** (Δ **3.7%**)

■ 電子部品物流 Δ 0.5 億円

生産性向上を図るが、活動費用増、国際輸送競争激化などにより利益減

■ 商品販売 Δ 1.2 億円

増収だが、プロダクトミックスの影響で仕入原価率が上昇し利益減

■ 消費物流 Δ 0.4 億円

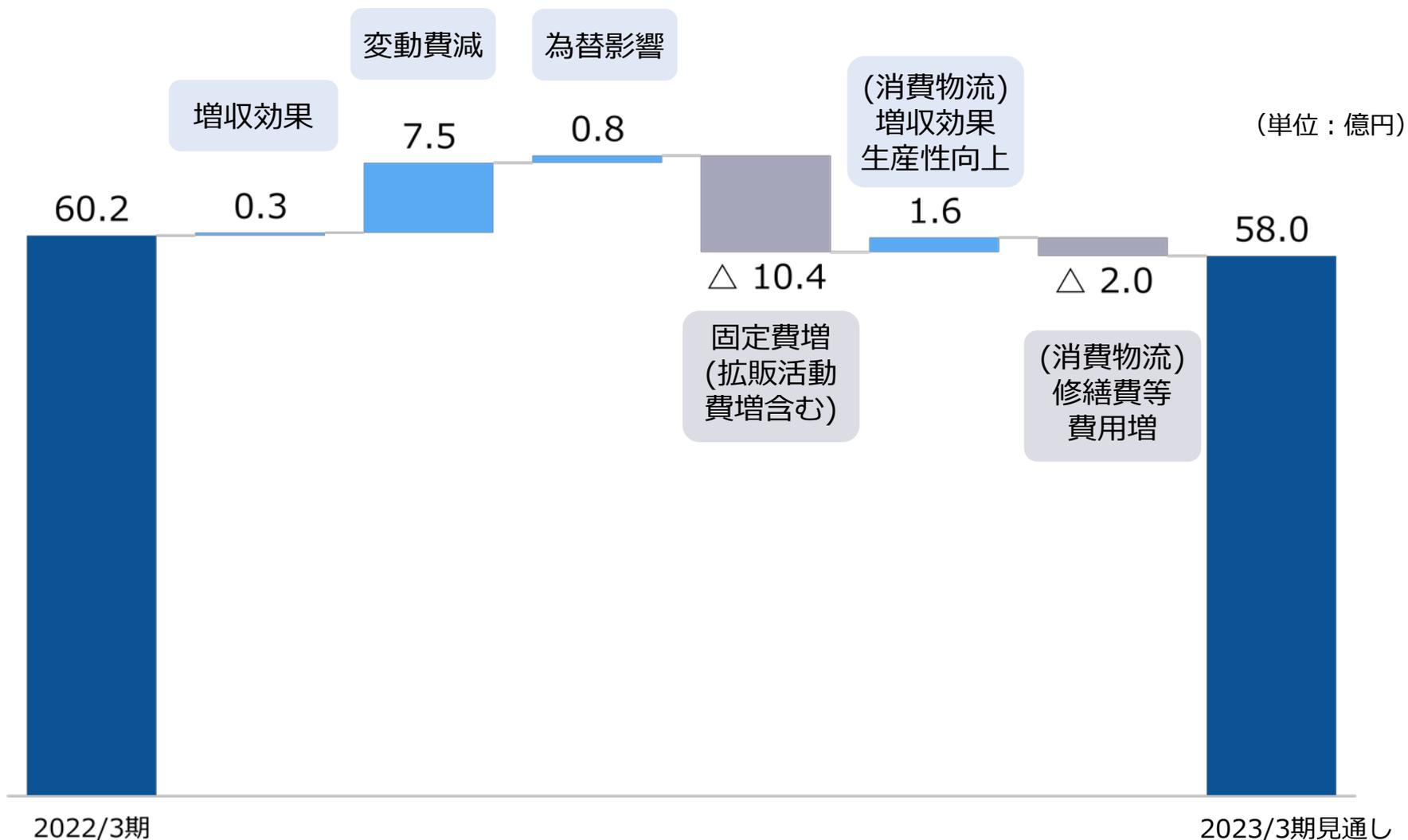
増収効果と生産性向上の一方、修繕費や拡販コスト増により利益減

2022/3期

2023/3期見通し

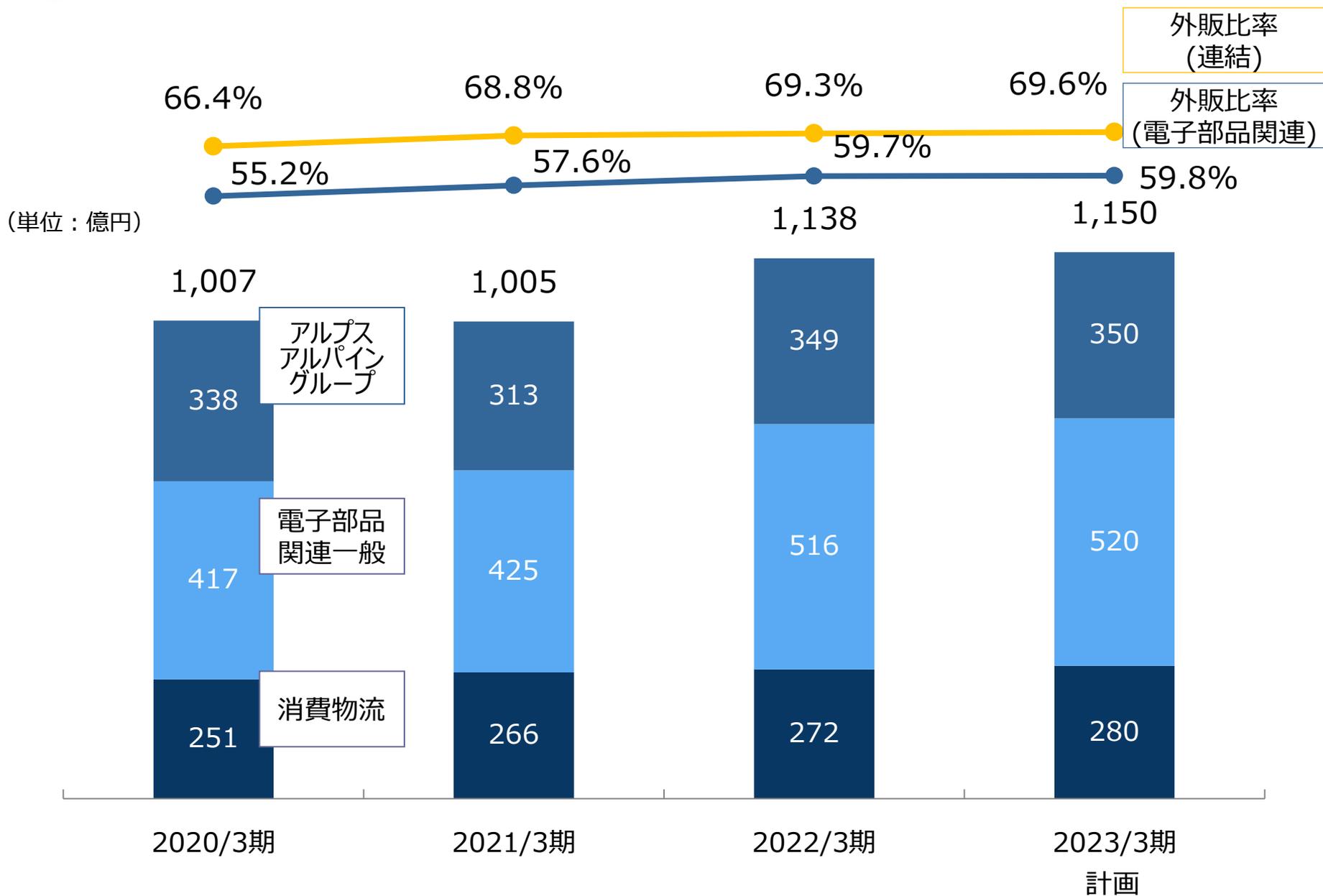
※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です

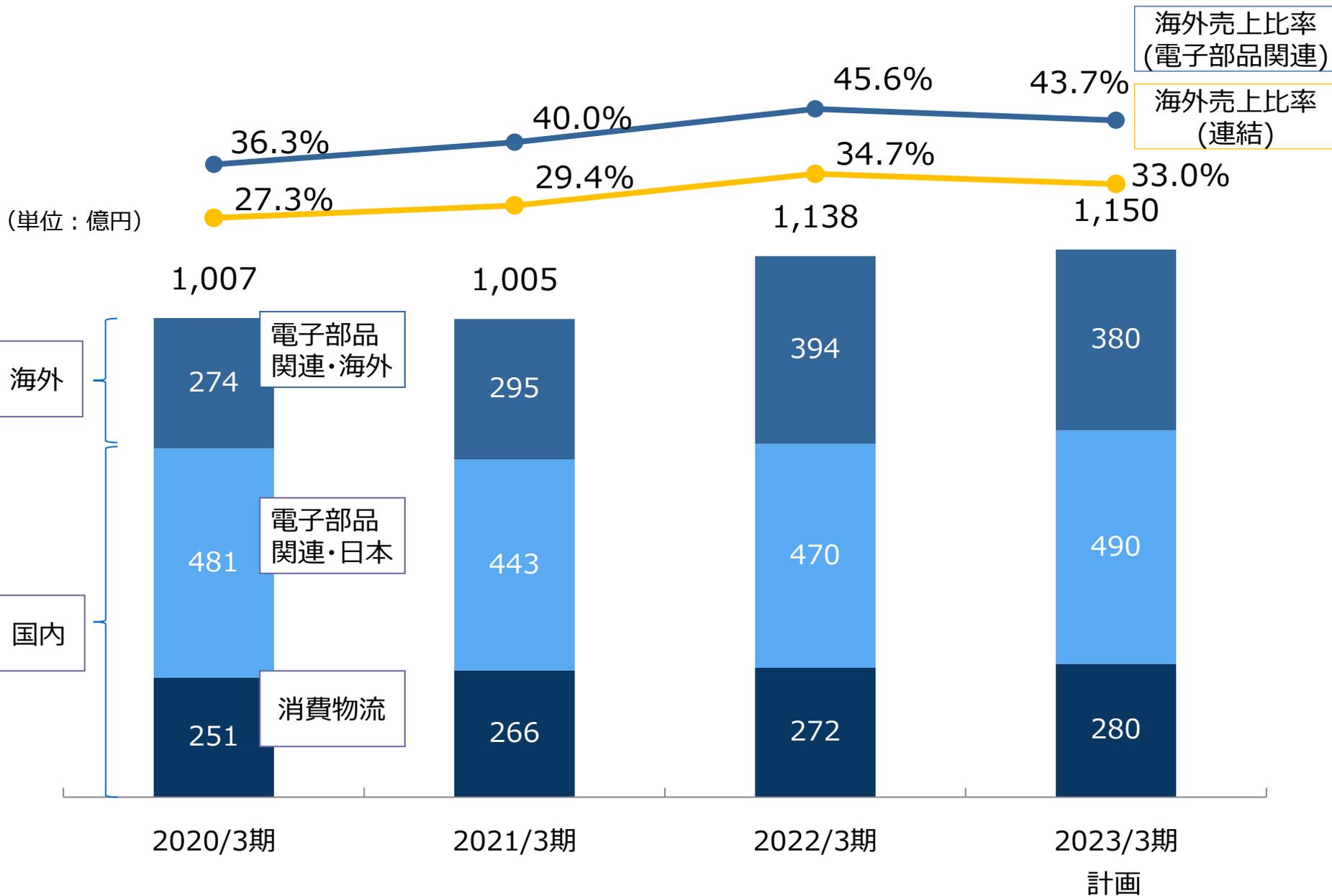
生産性向上を図るが、拡販活動経費増などで微減益





外販比率





「戦略投資拡大」=「拠点整備」 + 「生産性向上」

【設備投資額】

(倉庫賃借除く)

(単位：億円)

2022/3期

2023/3期
計画

2024/3期
見通し
第5次中期経営計画

2025/3期
見通し

消費物流
電子部品関連



【主案件】

横浜倉庫建設

加須2期棟建設

バンナ2期棟建設

名古屋倉庫建設

(検討中) 倉庫関連

海外拠点の新設・整備など

環境関連設備・車両の導入

自動化設備

資本業務提携など

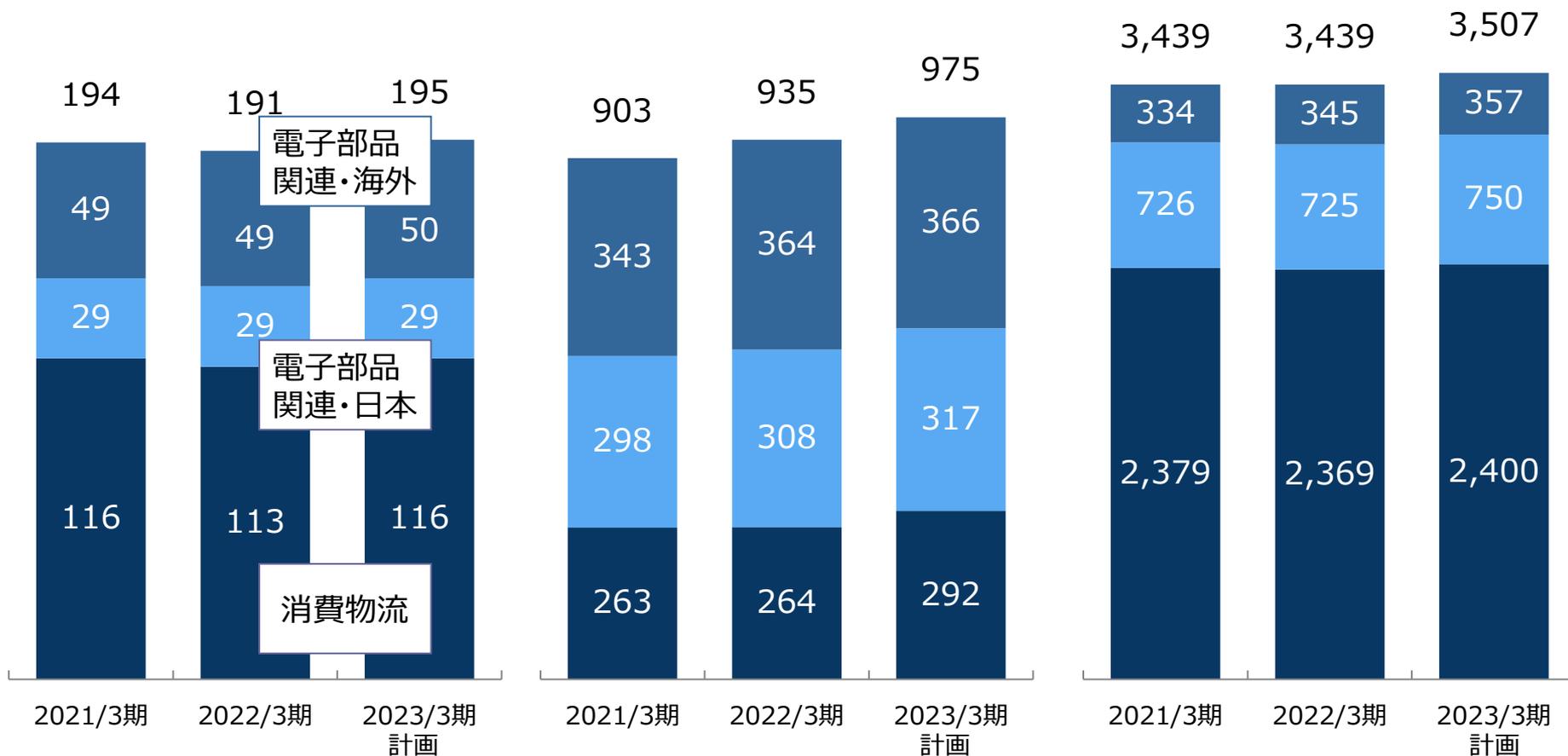
■ 拠点数 (単位：箇所)

(単位：箇所)

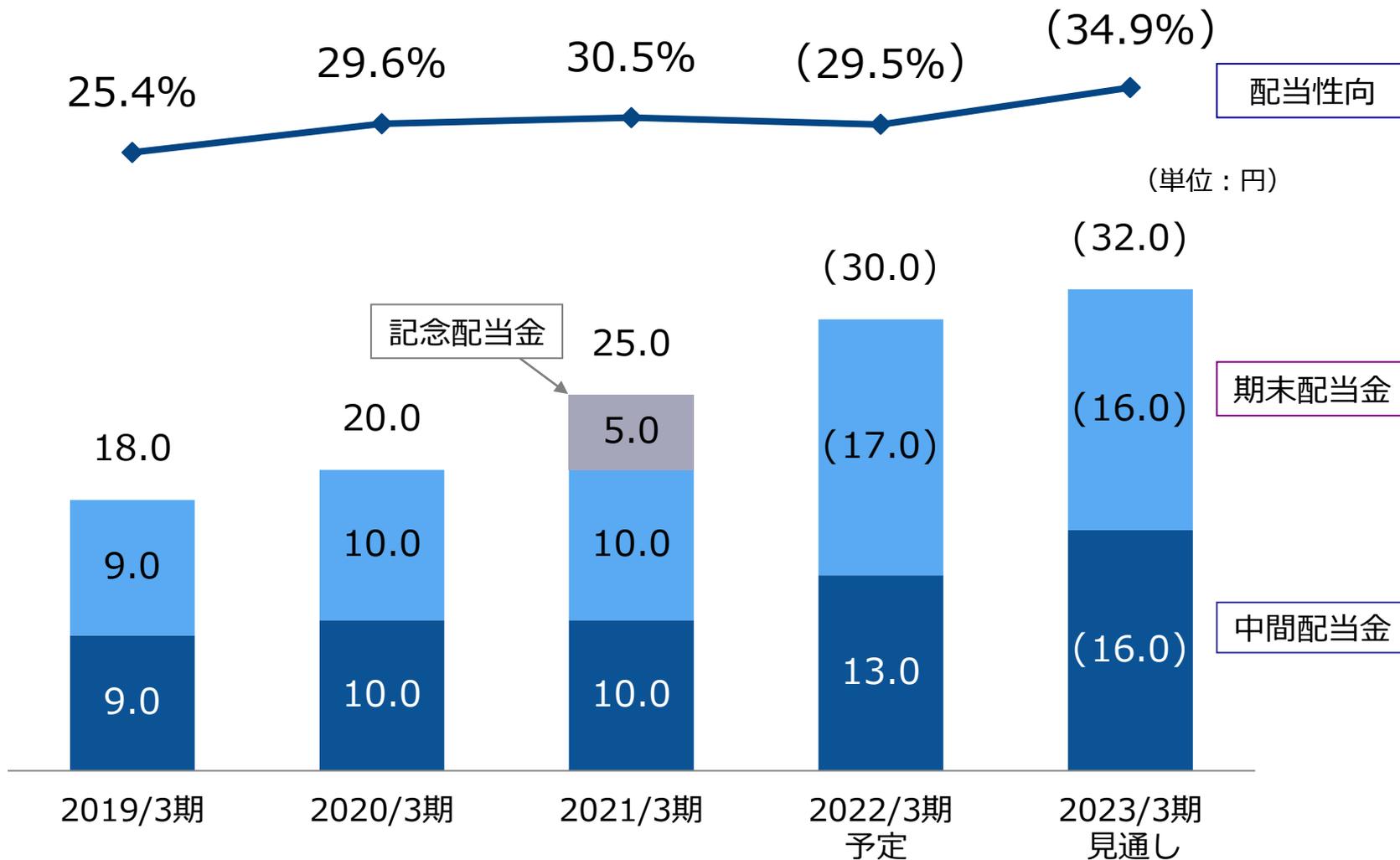
■ 倉庫面積 (単位：千㎡)

(単位：千㎡)

■ トラック 定期運行台数 (単位：台)



- 投資と株主還元のバランスを取り、安定的に増配を目指す
- 配当性向は概ね30%~40%の範囲とする



ご注意：

本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。

実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は会計監査対象外となっています。